

基本コンセプト

地域資源を効果的に活用し、町内外の交流を促進させる施設

『行きつけの田舎』づくり

川俣町は阿武隈山系の北部に位置する小さな盆地です。東西南北360度、みわたすかぎりの里山に囲まれています。

このような山あいのまちは平地が少なく、諸先輩たちは、自分たちや次の世代の子孫たちが暮らしやすいように、大地を拓き、水を引き、畑や田んぼを耕してきました。川俣はそれらを基盤（インフラ）にして養蚕と絹織物のまちとして発展しましたが、それは一朝一夕になしえたわけではありません。人びとの営みは、里山の地域資源を効果的に活用し、全国屈指の絹の産地化を図るため、なみなみならぬ情熱と努力と、労苦さえも絶えなかったのではないかと、この廃校を前にして想像をかきたてられます。

いまの時代は、不確実性の時代と言われますが、私たちは次世代に何を、どんな魅力ある土台を受け渡せるのでしょうか。

こんな思いの中、旧飯坂小学校発「『行きつけの田舎』づくり」という考え方を、今ここから発信していきます。

基本方針 (1)

里山文化に学び、知恵をつなぐ場所

花塚山麓にひろがる豊かな自然、人びとが紡いできた歴史と文化、そして生きる知恵・技などを最大限に活かした体験や交流、イベントを展開し、積極的に飯坂地区の魅力を発信していきます。

また校舎のおしゃれなデザイン性と空間を活かした、学び・体験、産直・物販、里山文化の新たな価値の再発見など、多世代の交流が生まれ、促進される場所となるように利活用します。

基本方針 (2)

子育て世帯・若者たちの憩いの場所

子育て世帯が気軽に立ち寄り、ほかの子育て世帯と交流したり、育児の情報交換できたりする場としての役割を担う場所となるよう整備します。

また、かつての同窓生が集い、里帰り家族が集い、旅する人びとが集い、国内外の川俣ファンが集い、賑わいが生まれ、交流の促進と拡大につながるよう場所を目指します。

基本方針 (3)

何度も繰り返し、訪れたくなる場所

それも一回きりではなく、多くの人びとが足しげく通う魅力ある場所としていきます。

『行きつけの田舎』は第二のふるさとづくりを応援します。施設を活用し、地域づくりをする方々の活動の場を整え、生業と観光の好循環を生み出し、交流から移住・定住につながる取組みが生まれる施設を目指します。

事業化にむけての考え方

■公共施設等のマネジメントの基本方針

川俣町公共施設等総合管理計画では公共施設等の総合的かつ計画的な管理の基本方針として、将来的な人口予測や財政状況、利用状況の変化への対応を考慮した場合には、更なる公共施設等の総量削減や財政負担の軽減及び平準化を図る必要があるため、以下の基本理念と公共施設マネジメントの基本方針を定めています。

【財務】 限られた財源を賢く活用

【品質】 事後保全から予防保全へ転換

【供給】 公共建築物の最適な保有量と、適正配置の実現

【マネジメント】 推進体制と PDCA サイクルの構築

旧飯坂小学校廃校利活用の事業化方針

○公民連携による施設の利活用

民間企業等の見識や資金、アイデアを活用し、効果的、効率的に公共サービスの提供や地域課題の解決を図ります。

○施設の効率的活用に向けた再編

飯坂地区内にある施設の適切な保有量と最適配置の実現と、効率的利用を図るため、周辺施設の再編等も段階的に検討します。

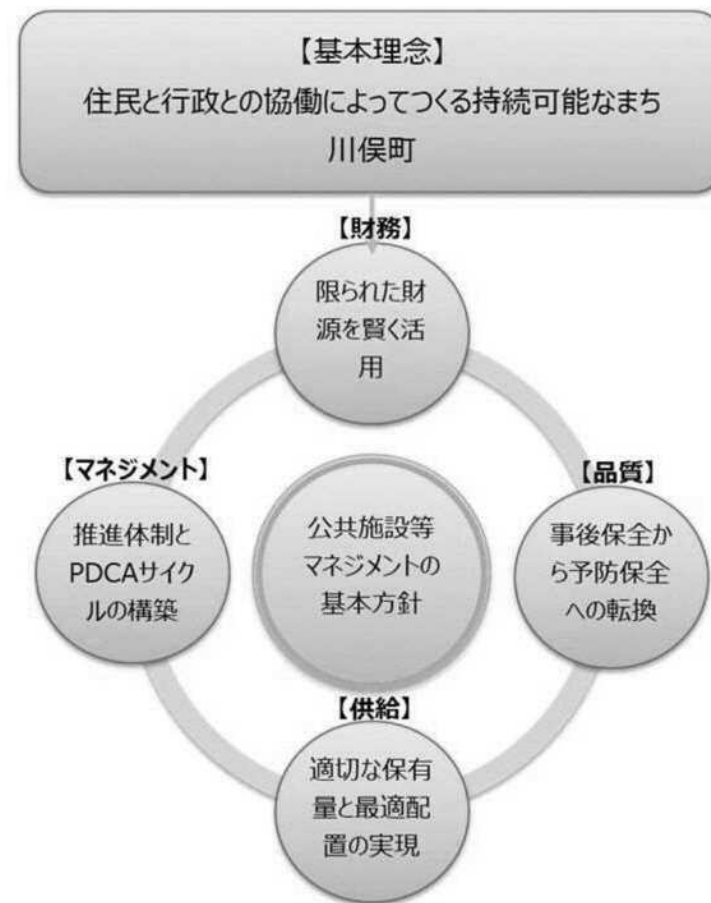


図8 基本理念と公共施設マネジメントの基本方針

出典：川俣町公共施設等総合管理計画（2024年度）